

第26号 維新の風



ご挨拶

東京の都議会議員選挙では、改選前の第1党自民党は予想以上の惨敗で23議席に減った。都議選が注目を浴びるのは過去の国政選挙に大きな影響を与えたことによる。石原都政以降、色々な問題が発生し2人の知事が途中で降板し小池知事が誕生。余勢をかって「都民ファースト」(地域政党)が大躍進した。

森友・加計問題への対応で、一強自民党の驕りが今回の惨敗の原因である。トップへ忖度し「内部文書を怪文書呼ばわりする」内閣官房長官や「落とせるものなら落としてみよ」と息まく幹事長、記憶にないと言い張る文科省の官僚、忖度がまかり通っている日本社会ではあっても程度ものである。嘘をつく事は悲しい事。人として、李下に冠をかざさずの姿勢が肝要である。

平成二十九年七月吉日

大阪狭山維新の会



小原かずひろ

東野、大鳥池の太陽光発電設備の是非

狭山魅力発信・発展に関する諸問題が今大きな問題になっている。

6月議会では、地元の住民がパネル数の削減の請願書を議会に提出した。周辺住民への詳しい説明をしなかった市当局のやり方が非難されるが、それ以上に充分な環境アセスメントを実施せずに、強引に設置工事を行った付けが今にきているようだ。当初から

懸念されていた太陽光のパネル反射は予想以上で周辺住民の不安を膨らませている。今後20年間、毎日、毎朝、毎朝こんな景色が続くのだろうか？

夏になりパネル上の温度上昇により周辺の住宅地に熱せられた空気が流れ込む危険性も懸念される。議会の決議を経ずに慌てて作った関連子会社と市の責任は一体どうなるのだろうか。

新池を訪ねて

11階の高さから眺める

昨年3月に突然持ち上がった「新池」の太陽光発電設備設置の計画は大阪狭山維新の会の迅速な対応並びに住民の反対運動により中止となった。あれから既に1年が経過、レイクハイツから池を眺めた。北側にはマンション「コーポ」

が、西側には遊園ハイツ、真新しい「青葉ヶ丘病院」

もごく近くに見える。11階から眺めると、この新池が建物群に囲まれている中庭池であることが実感できる。太陽の反射光などの問題が発生しつつある大鳥池の現状を考えると、よくぞ計画が中止になったものだと思つづくと思う。やはり狭山には緑が映え、水がきらめく自然が相応しい。



マンション11階から北側を望む(H29年6月撮影)



大鳥池の太陽光パネル反射光(H29年5月撮影)